

57

本大綱案ノ決定ハ連絡會議ノミニテ足ルヤ將又御前會議ノ決定ト  
 スル要アリヤトノ議論出テタルカ(イ)第六項「マライ」「スマトラ」  
 等廣大ナル地域ヲ帝國領土ト決定スルコトハ極メテ重要ナル問題  
 ナル上(ロ)國民政府ヲシテ對重慶政治工作ヲナサシムルコトモ爰ニ  
 對重慶和平工作ヲセサル旨ノ御前會議決定ニ變更ヲ加フルコトト  
 ナルヲ以テ之等ノ點ヨリ考慮シ、今回ノ大綱モ之ヲ御前會議決定  
 トスルコト至當ナルヘシトノ結論ニ到達セリ  
 本大綱案ハ二十九日(土)ノ連絡會議ニ附議決定ノ豫定ナリ  
 連絡會議ニ於ケル說明ハ總理之ニ當ルヘキモ外務大臣ニ於テ外交  
 的見地ヨリ一應ノ說明アルヘキコトヲ考ヘ居レリ

0443

八部ノ内第二號  
 第十回御前會議開會ノ件  
 一日時 昭和十八年 月 日( )午 時  
 一場所 宮中東一ノ間  
 一議題 一、大東亞政略指導大綱  
 一出席者  
 內閣總理大臣兼陸軍大臣、外務大臣、大藏大臣、海軍大臣、  
 大東亞大臣、鈴木國造大臣兼企畫院總裁、  
 參謀總長、參謀次長、軍令部總長、軍令部次長、  
 樞密院議長、  
 內閣書記官長、陸軍省軍務局長、海軍省軍務局長

0444

一 服裝 フロックコート又ハモリニングコート又ハ之ニ準ス  
ヘキ帽被

0445

52

△ 一度決定  
大水俣理長  
ちりり

八部ノ内第二號

第十回御前會議開會ノ件(内閣案)

一五五三八  
主務者命議

一日 時 昭和十八年五月三十一日(月)午前十時

一場 所 宮中東一ノ間

一 議題 一 大東亞政略指導大綱

一 出席者

内閣總理大臣兼陸軍大臣、外務大臣、大藏大臣、海軍大臣

大東亞大臣、鈴木國務大臣兼企畫院總裁

參謀總長、參謀次長、軍令部總長、軍令部次長

樞密院議長

内閣書記官長、陸軍省軍務局長、海軍省軍務局長

外務省

0446



一 服裝  
フロックコート又ハモーニングコート又ハ之ニ準ス  
ベキ軍裝

0447

連絡會議經過

昭和一八年ニル

○佐藤陸軍軍務局長ヨリ議題タル大東亞政略指導大綱ニ付説明アリ  
(イ)對華方策ニ付テハ日華基本條約ノ改訂トスルヤ將又同盟條約ニ  
切替ヲナス方可ナルヤ、尙主トシテ技術的ニ研究ノ餘地アリ、  
仍テ本提案ニ於テハ何レニモナシ得ル様「日華基本條約ヲ改訂  
シ要スレハ日華同盟條約ヲ締結ス」トシ置キタリ、從來ノ研究  
ニ於テハ出來得レハ日華同盟條約トシタキ考ニテ進ミ居レリ  
(ロ)對重慶工作ハ、南京ヲシテ國內問題トシテナサシムトノ趣旨ヨ  
リ對重慶政治工作トセリ、尙對華方策末段、本件實行ノ時期ハ  
再ヒ御前會議ニテ決定スル煩ヲ避ケル爲、特ニ連絡會議ニテ決  
定ストシタリ

0448

(イ)比律賓獨立ノ時期ハ種々論議アリタルカ、速ニ實行シタキ考ヘヨリ本年十月頃ト豫定セリ、但シ外部ニ言フ場合ニハ本年中ト云フカ如ク幅ヲ持タス積リナリ

(ニ)大東亞會議ニ招集スルハ獨立國ノミトシタリ、從ツテ特ニ「大東亞各國」トセリ

(ホ)第六項ノ(イ)以外ハ當分發表セストアルハ、當分トハ適當ノ時期迄發表セストノ意ニシテ間モ無ク發表スト云フカ如キ考ニハ非ス、(外務大臣ヨリ、然ラハ當分ナル用語ハ不要ナルヘキ旨發言アリ)

外務省

(東條總理ヨリ(イ)「マライ」等ノ領土編入ノ點ハ國際的關係モアリ發表セサル趣旨ナルニ付議會等ニ於テモ一切言ハサルコトトシタキ旨注意アリ)

(ニ)本案ハ基本條約ノ改訂・對重慶工作・「マライ」等ノ領土編入・比島獨立・大東亞會議召集等ノ重要問題ニ備ミ、之ヲ御前會議ニ於テ決定スルコトトシタシトノ趣旨ヲ説明セリ

○杉山參謀總長ヨリ、本案第六項(ニ)ハ特ニ「ニューギニヤ」ノ名ヲ出シ居ル所、「ニューギニヤ」作戰ハ既ニ一年來特ニ進捗シ居ラス、目下ノ所進捗スル見込モ立チ居ラサル狀況ナルニ付茲ニ特ニ「ニューギニヤ」ヲ採上ケ、掲記スルコトハ將來ノ作戰ヲ拘束セラルカ如キ感シモアリ、參謀本部トシテハ贊成シ難シ、單ニ(イ)

外務省



57

以外ノ地域トシ、「ニューギニヤ」ハ右地域中ニ包含セシム趣旨トシ差支ナカルヘシト思フ旨述ヘタルカ、軍務局長ヨリ、作戰ヲ拘束スルカ如キ意向ナキ旨答辯アリ、又島田海相ヨリ「ニューギニヤ」ハ海軍軍政下ニ於ケル相當大ナル地域ナルヲ以テ軍政責任ノ立場ヨリ特ニ掲記ヲ希望スル次第ナル旨ノ意見アリ、其ノ後參謀次長ヨリモ「ニューギニヤ」ノ字句削除方意見ノ開陳アリタルモ其ノ儘トナリタリ

○軍令部次長ヨリ、對重慶工作ニ付種々疑問ノ提出アリタルカ、東條總理ヨリ對ニ帝國トシテハ和平工作ヲセサル旨ノ決定アリタルモ、其ノ後事態ニ幾分變化アリ、且ツ元來南京政府ハ和平政權トシテ成立セルモノナルヲ以テ此ノ際國內問題トシテ政治工作ヲナ

外務省

0451

58

スコトニ付テハ干涉セサルコトトセル次第ナリ、尙政治工作中ニ和平工作ヲ含ムヤトノ質問ニ對シテハ、之ヲ肯定セサルヲ得ス、尤モ南京ノ工作或ル程度進捗セル際ニハ帝國カ外交ノ手トシテ之ヲ採上グルコトハ是アルヘク、右ハ對重慶ノ外交ノ手ナリト考ヘ居レル旨説明アリ

○賀屋藏相、國際情勢樞軸ニ有利ナラサル際、再ヒ對重慶工作ヲナスコトハ我カ方ノ興味ト見ラルル虞アリ、尙之カ運用ニ當リテハ從前ノ如キ浪人等ノ跳梁ヲ防ク様注意ノ要アル旨述ヘ外務大臣ヨリ之カ運用ニハ慎重ノ手續ヲ要ス、即チ一方南京側ニ於テハ對重慶工作ニ付テハ周佛海、陳公博ハ贊成ナルカ汪精衛ハ反對ノ意向ヲ有シ、他方重慶其ノ他ニ對スル響キモ考慮ノ要アリ從ツテ南京

外務省

0452

トノ連絡ハ在南京帝國大使一人トスル必要アル旨ヲ述フ  
 ○參謀總長、自分モ對重慶工作ハ一本ノ筋ニテナスヲ要ス、從ツテ大使一人ノ手ヲ經テ南京ト連絡スヘキモノナリト考フ、但シ軍トシテハ軍ノ立場ヨリ作戰ニ呼應シ、切崩工作ヲナシ居リ、右ハ純然タル作戰ノ立場ヨリノ仕事ナルカ政治工作トモ關係生スヘキニ付在南京大使ト在支軍司令官トハ常ニ緊密ナル連絡ヲナス要アリト存ス、之カ爲今後ハ關係方面間ニ於テ連絡方法等ニ付協議ノ要アリト思フ旨述フ

外務省

○東條總理ヨリ、日華基本條約改訂ノミニテ十分ナリヤトノ質問アリ  
 ○重光外相、自分ハ此ノ際同盟條約ニ切替フルコト絶對ニ必要ナリトノ意見ナリ、此ノ點ニ付テハ何レ十分ニ自分ノ意見ヲ御説明シタキ考ナルカ、之ヲ要スルニ支部トノ關係ハ何レノ方面ヨリモ非難シ得サルカ如キ状態トナシ置カサルニ於テハ今回決定セムトシツツアル大政策ニ魂カ入ラサル次第ナリ、今日ハ餘程大キナ手ヲ打ツヘキ時期ナリト考フルヲ以テ堂々ト世界ニ我カ政策ヲ示ス見地ヨリモ是非同盟條約トスル必要アリト思フ旨述フ  
 ○東條總理、自分モ戰爭指導上今日ニ於テハ餘程大キナ手ヲ打ツ必要アリト考ヘ居レリ、然ルニ本案ニハ一要素スレハ同盟條約ヲ締結

外務省



ス」トアリ、同盟條約トセサルコトヲ考ヘ居ルコトヲ示シ居リ  
 今日本案ノ如キ大キナ手ヲ打タムトスル際、對支方針ニ於テ不徹  
 底トナルハ甚々面白カラスト考フ、對支政策ハ對世界政策ニシテ  
 重慶ニ對スル大ナル手ナリ、從ツテ此ノ政策ハ蔣介石カ來ルト來  
 ラサルトニ拘ラス正々堂々トシテ打ツヘキ手ナリト考フ旨述フ  
 ○青木大東亞相、自分ハ基本條約中ニ含まレル北支、蒙疆其ノ他ノ  
 癩ヲ此ノ際全部以テ取ル意圖ナラハ同盟條約ニ切替フルコトニハ  
 賛成ナルカ、然ラストノコトナラハ、此ノ際基本條約ヲ廢棄スル  
 コトニハ疑問ヲ有スル旨述フ

外務省

0455

○東條總理、本件ヲ事務的ニ考フルハ誤リナリ、此ノ政策ハ總テ大  
 キナル政治目的ヨリ考慮セラルヘキモノナルヲ以テ戰時中必要ナ  
 ルコトハ軍事協定等別ニ方法ヲ講シ得ヘク、從ツテ大ナル政治目  
 的ヨリ考慮シ、一舉ニ同盟條約トナスヘキモノナリト考フ旨述フ  
 ○賀屋藏相、戰爭遂行ノ爲ニハ經濟總力ノ結集ヲ必要ニシテ、從ツ  
 テ日本ノ意思ニ依リ動クカ如キ體型必要トスヘク軍事的ニモ斯カ  
 ル必要アルヘキヲ以テ基本條約ヲ廢棄スルコトニ依リ斯カル基底  
 ヲ失フカ如キコトトナリテハ、事重大ナリト考フル旨述フ  
 ○鈴木總裁、戰爭遂行中軍事政治ノ各方面ニ亘リ、特殊ノ拘束ヲ受  
 クルコトハ支那側トシテモ當然覺悟シ居レリ、但シ支那側ノ心配  
 シ居ルハ戰爭終了後モ永久ニ斯カル拘束ヲ受クヘシトノ點ナリ、

外務省

0456

63

仍テ戰時中ハ特別ノ拘束アルモ、平時トナレハ是等ハ全部解除セ  
ラルルトノ趣旨ヲ明カニスル必要アリ、從ツテ今日從來ノ如キ考  
ニテ北支、海南島等ノ問題ヲ論シ居ルヤウニテハ今日最モ必要ト  
スル支那民心ノ把握ハ不可能ナリ、此ノ點ヲ明確ニスル必要アル  
旨述フ

大體右ニテ討論ヲ終リ、別添ノ通り修正決定セリ  
尙本件ニ關スル御前會議ハ三十一日午後二時開會スルコトナリ  
説明ハ一應總理ト外相、大東亞相ニ於テ分擔スルノ案提議セラレ  
タルカ、外相ヨリ總理一人ニテ十分ナルヘキ旨ノ意見開陳アリ、  
右ニ決定セリ

御前會議ニ於ケル總理説明案ハ三十日關係者事務局會議研究シ、

外務省

0457

64

三十一日早朝書記官長主催ノ幹事會議（關係省局長）ニ於テ一應  
決定、之ヲ各々上司ニ提出セリ  
尙原樞密由ヨリ豫メ四項目ニ亘ル質問アリ、之ニ對スル答辭案ヲ  
モ詳議セリ

外務省

0458



前會後之修正件

五月三十一日御前會議提出ノ大東亞政略指導大綱(案)ハ、五月二十九日連絡會議決定ノ大綱ヲ其ノ儘採リタルモノナルカ、變更ヲ加ヘタル部分左ノ通り

(1) 第四項對緬方策

連絡會議決定ハ「既定方針ヲ實行ス」トナリ居ル所、「ビルマ」獨立ニ關スル方針等ハ未タ御前會議ニ提出セラレタルコトナク從ツテ連絡會議ニ出席セサリシ樞密院議長ハ之ヲ全然承知シ居ラサル旨ヲ述ヘ、所謂既定方針ノ説明ヲ求メタルニ付、特ニ御前會議ノ議題トシテハ

「昭和十八年三月十日大本營政府連絡會議決定「ビルマ」獨立

外務省

指導要綱ニ基キ施策ス」ト記載セリ

(1) 第五項、對比方策

連絡會議決定ハ「既定方針ニ基キ成ルヘク速カニ獨立セシム」トアル所前記同様既定方針ハ未タ會ヲ御前會議ニ提出セラレタルコトナシトノ樞相ヨリノ申出アリタルニ鑑ミ「既定方針ニ基キ」ヲ削除シ御前會議議題ニ於テハ單ニ成ルヘク速カニ獨立セシム」トセリ

外務省

ニ御前會議ニ於ケル總理大臣説明案

五月三十日事務當局作成ノ説明案中翌三十一日幹事會議（書記官長主催ノ局長會議）ニ於テ修正セル點左ノ通り

(イ) 對比方策ノ後段一仍テ帝國ハ層次ノ公約ニ基キ之ヲ獨立セシムルコトトシ「トアリタルニ對シ、比律賓獨立ハ議會ノ演說等ニ於テ述ヘタルニ過キササルヲ以テ公約ハ少シク重キニ過グトテ」層次ノ聲明ニ基キ「ト訂正セリ

(ロ) 第六項、其ノ他ノ占領地ノ説明中段ニ「現ニ高度自治ヲ要望シテ居リマスル「ジャワ」ノ言題ニ對シ、「ジャワ」ニ高度自治ヲ與フルト云フコトハ之ヲ自治領ニスルカ如キ誤解ヲモ與フル虞アリ、大東亞攻略指導大綱中ニ於テ「政治ニ參與

外務省

0461

「高度自治」ヲ「政治ニ參與」ト修正セリ

外務省

0462



67

獨立ノ時機ハ概ネ本年十月頃ト豫定シ軍力精準備ヲ促進ス  
其其他ノ占領地域ニ對スル萬策ヲ左ノ通定ム  
但シ(四)以外ハ當分放棄セム

(五)「マライ」「スマトラ」「ジャワ」「ボルネオ」「オレムス」  
ハ帝國領土ト決定シ重要資源ノ供給源トシテ軍力之ガ開發並ニ  
民心ノ把握ニ努ム

(六)前記各地域ニ於テハ原住民ノ民衆ニ應ジ努メテ政治ニ參與セシ  
ム

(七)「ニューギニア」等(四)以外ノ占領地ノ處理ニ關シテハ前二號ニ  
準ジテ追テ定ム

(八)前記各地ニ於テハ當分軍費ヲ繼續ス

外務省

0463

75

大東亞會議

以上各方策ノ具現ニ仰ヒ本年十月下旬頃(比島獨立後)大東亞各  
國ノ指導者ヲ東京ニ召集セシメ半圓タル暇等完遂ノ決意ト大東亞  
共榮圈ノ確立トヲ中外ニ宣明ス

外務省

0464

貳拾部ノ内第

内閣總理大甲説明案

唯今ヨリ開會致シマス。

御許ニ得タルニ依リマシテ、本日ノ議事ノ進行ハ、私ガ之ニ當

リマス。

先ツ私ヨリ、本日ノ議題ニ付キマシテ御説明致シマス。

大東亞戰爭完遂ノ爲ノ帝國ノ政略指導ト致シマシテハ、日獨伊ノ

緊密提携ト大東亞ノ諸國家諸民族ノ結集トガ最重要ナルモノチ

アリマシテ、從來モ此ノ見地ヨリ色々ト努力シテ益々ノチマシ

マスガ、世界戦局ノ推移ニ鑑ミ、機ヲ逸セス速ニ、此ノ政略應

更ニ整備強化スルノ要愈々緊切ナルモノガアルト存セラルルノ

五三〇。事務官ら會議ニ出席  
五三〇。幹事會議(書記官長以下出席)  
ニニ長官の決定

外務省

テアリマス。

獨伊トノ提携強化ニ關シマシテハ、義ニ派遣シタル連絡使ヲシテ目

下伯林及羅馬ニ於テ大使及陸海軍武官ヲ輔佐センノ獨伊側ト連

絡協議中デアリマス。

大東亞諸國家諸民族ノ結集ニ關シマシテハ、滿洲國ヲ初メトシ諸

國家諸民族ハ帝國ノ大東亞戰爭遂行ニ同調協力致シテ居ルノチマ

リマスガ、更ニ之ガ結集ヲ一段ト強化スルノ緊要ト認メマシテ本

議題ノ御審議ヲ煩ハス次第デアリマス。

先ツ議題ヲ明讀致サセマス。

(議題明讀)

一方針

外務省





87  
(四) 對華方策

對華方策ニ御決定ヲ仰ギマシタル「大東亞戰爭完遂ノ爲ノ對支處理根本方針」ニハ國民政府ノ充實強化並ニ其ノ對日協力ノ具現等ニ照應シ適時日華基本條約ニ所要ノ修正ヲ加フルコトヲ考慮スベキ旨定メラレテ居ルヲチアリマス。

國民政府ハ參戰以來各般ニ互リ自強ノ途ヲ講ジテ居リマスルト共ニヨク帝國ノ眞意ヲ解シテ、大東亞戰爭完遂ニ協力シツツアリマスノチ、此際帝國ハ、「對支處理根本方針」ニ更ニ徹底具現セシムル爲右ニ即應スル如ク別ニ定ムル所ニ據リマシテ日華基本條約ヲ改訂シ日華同盟條約ヲ締結セントスルモノチアリマス。

外務省

84

又對支處理根本方針ニハ「帝國ハ重慶ニ對シ之ヲ對手トスル一切ノ和平工作ヲ行ハズ狀態變化シ和平工作ヲ行ハントスル場合ハ別ニ之ヲ決定ス國民政府モ亦帝國ノ態度ニ順應セシム」ル如ク定メラレタリマスガ爾後對支處理根本方針並ニ之ニ基ク諸施策ノ結果ハ遂次浸透シ、重慶側ニモ相當ノ動搖ヲ與ヘテ居ル狀況チアリマシテ過般應炳顯ノ國民政府參加モソノ一般左ト觀察セラレルヲチアリマス。

一方重慶側ハ經濟的ニ益々困窮ヲ加ヘツツアリマスノチ前述ノ對華諸方策等ノ進展ニ照應致シマシテ適時國民政府ヲ對應應政治工作ヲ實施セシムル如ク指導スルニコトヲ致シマシタ。然レナガラ重慶抗戰陣營ノ中樞ガ國民政府ノ

外務省



政治工作ニ今進ニ應ジ來ルコトハ尙重ミ難ク且其ノ時機ヲ誤ルトキハ寧ロ之ニ依ル者ガ少クナイノチアリマス。依テ其ノ時機ニ關シマシテハ政府ト統帥部トノ間ニ於テ協議決定スルコトヲ致シマス。

ニ對泰方策

泰國ニ對シマシテハ其ノ獨立國タルノ体面ヲ保持セシメソツクニシテ大東亞戰爭ノ遂行ニ衷心協力シ帝國ノ進歩ニ積極的ニ協助セシムル如ク指導シソツクアリマス。國民一般ハ戰爭ニ依ル生活ノ不自由ヲ動モスレバ「ビフン」政權ノ親日對策及日本軍ノ駐屯ニ由來スルガ如キ考ヲ抱キ敵性諸國ノ日泰離間策、反政府分子ノ策動ト相俟テ一般ノ對日空氣ハ必スシキ

外務省

満足スベキ状態ニアリトハ西ヒ雖イノチアリマス。

帝國トシテハ「ビフン」政權ノ困難ナル立場ト泰國民ノ心理的動向トニ鑑ミ、日泰同盟條約附屬秘密了解事項第一條ニ基キ日本軍占領地帯タル「マライ」ノ失地回復セシムルト共ニ經濟協力ヲ一層強化スルコトガ肝要チアリマス。又「シヤン」地方ノ一部ニ之ヲ泰國領ニ編入スルモノトシ之ガ實施ニ關シテハ「ビフン」ニ與フル影響ヲモ較量ノ上其ノ時機及地域等ヲ決定スルヲ要スルノチアリマス。

三對佛印方策

佛印ニ對シテハ帝國ノ大東亞戰爭遂行ニ實質的ニ利用スルト共ニ其ノ尊嚴ヲ保持シ、敵側ノ策謀ヲ封殺シ、帝國ニ對スル

外務省

各般ノ協力マ一層積極的ナラシムル如ク施策中チアリマシテ  
 今日迄ノ所佛印當局ノ對日協力ニハ相當見ルベキモノガアル  
 ノチアリマシムガ世界情勢ノ反映シ且米英重慶側ノ擁護ナル重  
 傳等諸般ノ事情ニ因リ佛印側ノ同調的態度未ダ十分ニハ徹底  
 スルノ端ニ達シテ居リマセンノチ益々前述ノ方針ヲ強化スル  
 コトガ肝要チアリマス。但シ佛印ノ本國ヨリ離脱セシムル如  
 キ極端ナル施策ハ大東亞戰爭ノ現段階ニ於テハ之ヲ避クル  
 要スルノチアリマス。

四對緬方策

對緬方策ニ就キマシテハ昭和十八年三月十日大本營政府連絡  
 會議決定「緬甸獨立指導要綱」ニ基キ施策中チアリマシテ

外務省

五月八日獨立準備委員會ヲ結成シ六月末準備完了ノ期ニ準備  
 促進中チアリマス。

五對比方策

比島ニ於テハ第八十一回帝國議會ニ於ケル比島獨立ノ再確認  
 ニ關スル帝國政府ノ聲明ニ依リ依然對日信賴ノ度ヲ強ク行政  
 府長官以下帝國ノ眞意ヲ解シ、治安ノ肅正行政ノ徹底ニ銳意  
 努力中チアリマシテ大東亞共榮圈ノ一環トシテ更生シソツテ  
 其ノ一端ハ過般現地ニ送リマシテ私ヲ目ノマシムル之ヲ見  
 タノチアリマス。

依テ帝國ハ屢次ノ聲明ニ基キ之ヲ獨立セシムルコトトシ其ノ  
 時期ハ治安未ダ完カラザルモ、戰爭指導上ノ要請ト比島側ノ

外務省



自發的協力促進ノ見地トモリ概ネ本年十月頃ト決定シ準備ヲ促進スルコトト致シヤシキ。  
六其他ノ占領地域

「マライ」「スマトラ」「ジャバ」「ボルネオ」「ケレハン」ハ民度低クシテ獨立ノ能力乏シク且大東亞防衛ノ爲帝國ニ於テ確保スルヲ必要トスル要域デアリマスノチ之等ハ帝國領土ト決定シ重要資源ノ供給源トシテ極力之ヲ開發立ニ民心ノ把握ニ努ムル所存デアリマス。之等ノ地域ニ於テハ當分ノ間依然軍政ヲ繼續致シマスガ原住民ノ民度ニ應ジ努メテ政治ニ參與セシムル方針デアリマシテ現ニ高麗申治ヲ要望シテ居リマス。[ジャバ]ニ對シテハ特ニ之ヲ認メル積リデアリマス。

外務省

而シテ本歸屬決定ハ敵側ノ宣傳ノ資ニ供セラルル等ノ虞ガアリマスノチ當分ノ間發表セザルコトト致シマスガ原住民ノ政治參與ニ關シマシテハ適宜之ヲ發表スルヲ適當ト考ヘテ居リマス。

「ニューギニア」等前述以外ノ地域ノ處理ニ就キマシテハ既ニ述ベマシタル所ニ準シテ追テ定ムルコトト致シマス。  
大東亞會議

以上各方策ノ具現ニ伴ヒ本年十月下旬(比島獨立後)大東亞各國ノ指導者ヲ召集セシメ、戰爭完遂ト大東亞共榮圈確立トノ牢固ナル決意ヲ闡明シ以テ戰爭完遂ニ邁進セントスルモノデアリマス。

外務省

以上ヲ以テ私ノ説明ヲ終リマス。

外務省

0477

貳拾部ノ内第 號

第十回御前會議開會ノ件

一 日 時 昭和十八年五月三十一日(月) 午前<sup>12</sup>十時

二 場 所 官中 東一ノ間

三 議 題 一「大東亞政略指導大綱」

四 出席者

内閣總理大臣兼陸軍大臣・外務大臣・大藏大臣・海軍大臣

大東亞大臣・鈴木國務大臣兼企畫院總裁

參謀總長・參謀次長・軍令部總長・軍令部次長

樞密院議長

外務省

0478



42

内閣書記官長、陸軍省軍務局長、海軍省軍務局長  
 一服 装 文官ハ「フロックコート」又ハ「モーニングコート」  
 武官ハ軍裝勳章一個

0479

外務省

42

△  
 一 陸軍省  
 一 海軍省  
 一 内閣書記官長  
 一 陸軍省軍務局長  
 一 海軍省軍務局長

八部ノ内第二號  
 第十回御前會議開會ノ件 (内閣案) 五、五、二六  
 之日 時 昭和十八年 五月三十一日(月)午前十時  
 一 場 所 宮中東一ノ間  
 一 議 題 「大東亞政略指導大綱」  
 一 出席者  
 内閣總理大臣兼陸軍大臣、外務大臣、大藏大臣、海軍大臣、  
 大東亞大臣、鈴木國務大臣兼企畫院總裁  
 參謀總長、參謀次長、軍令部總長、軍令部次長  
 樞密院議長  
 内閣書記官長、陸軍省軍務局長、海軍省軍務局長

0480

外務省

一 服 裝  
フロックコート又ハモーニングコート又ハ之ニ準ベ  
ヘキ軍裝

0481

67

ニ御前會議ニ於ケル總理大臣説明案

五月三十日事務當局作成ノ説明案中翌三十一日幹事會議（書記官  
長主催ノ局長會議）ニ於テ修正セル點左ノ通り

(1) 對比方策ノ後段「仍テ帝國ハ屢次ノ公約ニ基キ之ヲ獨立セシム  
ルコトトシ」トアリタルニ對シ、比律賓獨立ハ議會ノ演說等ニ  
於テ述ヘタルニ過キサルヲ以テ公約ハ少シク重キニ過クトテ「  
屢次ノ聲明ニ基キ」ト訂正セリ

(2) 第六項、其ノ他ノ占領地ノ説明中段ニ「現ニ高度自治ヲ要望シ  
テ居リマスル「ジャワ」」ノ言廻シニ對シ、「ジャワ」ニ高度  
自治ヲ與フルト云フコトハ之ヲ自治領ニスルカ如キ誤解ヲモ與  
フル虞アリ、大東亞攻略指導大綱中ニ於テモ特ニ「政治ニ參與

0482



セシム」ナル字句ヲ使用シ居ルニモ鑑ミ「高度自治」ヲ「政治  
參與」ト修正セリ

外務省

獨立ノ時機ハ概ネ本年十月頃ト豫定シ極力諸準備ヲ促進ス  
其  
其他ノ占領地域ニ對スル萬策ヲ左ノ通定ム  
但シ(一)以外ハ當分發表セズ  
(イ)「マライ」 「スマトラ」 「ジャワ」 「ボルネオ」 「セレベス」  
ハ帝國領土ト決定シ重要資源ノ供給源トシテ極力之ガ開發並ニ  
民心ノ把握ニ努ム  
(ロ)前號各地域ニ於テハ原住民ノ民度ニ應ジ努メテ政治ニ參與セン  
ム  
(ハ)「ニューギニア」等(イ)以外ノ占領地ノ處理ニ關シテハ前二號ニ  
準ジテ追テ定ム  
(ニ)前記各地ニ於テハ當分軍政ヲ繼續ス

外務省

70

大東亞會議

以上各方策ノ具現ニ伴ヒ本年十月下旬頃（比島獨立後）大東亞各國ノ指導者ヲ東京ニ召集セシメ牢固タル戰爭完遂ノ決意ト大東亞共榮圈ノ確立トヲ中外ニ宣明ス

0485

REEL No. A-0231



日支國交調整ニ關スル條約案訓令ニ關スル外務大臣內奏(案)

謹テ日支國交調整ニ關シマスル條約立案ノ方針、訓令起案ノ趣旨ニ付キマシテ申上ゲマス

一 本條約案ハ昭和十三年十一月三十日 御前會議ニ於テ御決定相成リマシタル日支新關係調整方針ニ基キマシテ昭和十四年十月三十日上海ニ於キマシテ梅機關並ニ汪精衛間ニ於テ內約セラレ昭和十五年一月九日內奏致シマシタル協議書類ノ内容ヲ一應全般ニ涉リ檢討致シマスルトトモニ其ノ後ノ情勢ノ變化ニ應ジ必要ナル修正ヲ加ヘタルモノデアリマス而シテ我方ト致シマシテハ兩國國交修復ニ必要ナル一般的基本條項ノ外次ノ様ナ事變拾收上ノ我方絕對的要求ハ必ズ同時調印ヲ了スルコトヲ企圖致シテ居リマス次第デアリマス尤モ交渉開始ノ事情カ總理大臣內奏ノ如クデアリマスルニヨリ交渉中ニ於キマシテモ常ニ今後ニ於

外務省

キマスル世界政局ノ變轉ト事變全局ノ動向トニ即應シマシテ機宜ノ處斷ニ出テ得ルノ彈力性ヲ保持致シマスルト同時ニ帝國ノ事變遂行力ニ微動タモ影響ヲ及ボサザルノ用意ヲ持チマシテ本交渉ニ當ラントスル次第デアリマス

(一) 蒙疆及北支ニ於ケル帝國ノ駐兵及之ニ附隨スル諸事項

(二) 海南島及南支沿岸特定島嶼ニ於キマスル帝國ノ艦船部隊ノ留駐及之ニ附隨致シマスル諸事項

(三) 支那特ニ蒙疆、北支、海南島南支沿岸特定島嶼ニ於テハ我方不足重要資源ノ開發利用並ニ之ニ關聯スル事項

(四) 支那ニ於ケル交通通信事業ニ對スル我方ノ協力ニ關スル事項

(五) 戰爭繼續中ノ特殊事態ノ承認

(六) 既成事實ノ承認

等デアリマス

而シテ本條約案中此ノ際公表致スル不利ト認メマスル事項ハ兩

外務省

國全權間ノ正式ナル秘密協定トシ日支和平回復後適當ノ時機ニ  
之ヲ公表スル等ノ措置ヲ講ズル方針デアリマス尙條約全般ニ關  
シマスル立案ハ一應終了致シマシタガ交渉開始ヲ急クノ必要上  
差當リ交渉開始ニ必要ナル部分ノミヲ決定致シマシタ、新政府  
承認迄ニ必要ナル條項ヲ就キマシテハ追テ取急キ審議決定致ス  
心算デアリマス  
ニ尙新條約ヲ批准スベキ中華民國國民政府ノ主權者ハ同政府主席  
デアリマス從テ現在ノ主席代理タル汪精衛ハ調印時機迄ニハ主  
權ヲ行使シ得ル如ク措置スルノ要ガアルノデアリマス從テ所要  
ノ時期迄ニハ支那側ニ於テハ其ノ手續キヲ致スコトニナルノデ  
アリマス

外務省

0488

159  
内閣總理大臣

全員本議案ニ完全ナル意見ノ一致ヲ見タルモノト認メマス  
最後ニ大本營陸海軍部及政府ヲ代表シテ私ヨリ一言申上ケマス  
帝國ハ大東亞戰爭完遂ノ爲今後本根本方針ニ則リマシテ中央現地  
一貫セル對支諸施策ノ徹底具現ヲ圖リタイト存シマステニ現地ニ  
於キマシテハ皇軍ノ嚴平タル威容カ本施策完遂ノ根基タルヲ思ヒ  
マシテ軍ハ其本然ノ戰略方策ニ專念シ政府現地機關モ亦其戰略任  
務完遂ニ一途邁進シ而モ相互ノ聯繫ヲ密ニシテ一糸亂レズ本根本  
方針ニ基ク諸施策ノ敏速且適確ナル結實ヲ圖リ眞ニ更新支那ト一  
體ト爲シテ大東亞戰爭ヲ完遂シ以テ大御心ニ副ヒ奉ランコトヲ期シタイト  
存シマス  
之ヲ以テ本日ノ會議ヲ終リマス

外務省

0489



貳拾部ノ内第

内閣總理大隈説明案

唯今ヨリ開會致シマス。

御許ニ得タルニ依リマシテ、本日ノ議事ノ進行ハ、私ガ之ニ當  
リマス。

先ツ私ヨリ、本日ノ議題ニ付キマシテ御説明致シマス。

大東亞戰爭完遂ノ爲ノ帝國ノ政略指導ト致シマシテハ、日獨伊ノ  
緊密提携ト大東亞ノ諸國家諸民族ノ結集トガ最も重要ナルモノデ  
アリマシテ、從來モ此ノ見地ヨリ色々ト努力シテ来リマシテ、  
マシガ、世界戦局ノ推移ニ鑑ミ、俄ニ進マズ速ニ、此ノ政略態勢  
ノ更ニ整備強化スルノ要愈々緊切ナルモノガアルト存セラルルノ

外務省

0490

テアリマス。

獨伊トノ提携強化ニ關シマシテハ、韓ニ派遣シタル連絡使ヨリテ日  
下伯林及羅馬ニ於テ大使及陸海軍武官ヲ輔佐マシテ、獨伊側ト連  
絡協議中テアリマス。

大東亞諸國家諸民族ノ結集ニ關シマシテハ、滿洲國ノ初ノトシ精  
國家諸民族ハ帝國ノ大東亞戰爭遂行ニ同調協力致シテ居ルノチ  
リマスガ、更ニ之ガ結集ノ一段ト強化スルノ緊要ト認メマシテ本  
議題ノ御審議ヲ煩ハヌ次第テアリマス。

先ツ議題ヲ明瞭致サセマス。

(議題明瞭)

外務省

0491

大東明ノ諸國家諸民族ノ結集ハ大東明戰爭完遂ノ爲諸國家諸民族ノ戰爭協力強化ヲ主眼トシタルモノチアリマシテ、特ニ之ガ具現ニ依ツテ支那問題ノ解決ニ資セントスルモノチアリマシ。一方世界情勢ハ、獨「ソ」戰ノ如何ニ依リ相當ノ變革アルベク、此ノ見透シノツクヘ概ネ十一月頃ト推想セラルレ、且米英ノ反攻ハ逐次熾烈化スルト見ハレマシ、速ニ大東明ノ政略態勢ヲ整備強化シ、世界情勢ノ推移如何ニ拘ラズ、帝國ハ大東明團結ノ力ヲ以テ、毅然トシテ戰爭指導ノ主動性ヲ堅持セントスルモノチアリマシ。

一、對滿華方策

(1) 對南方策

外務省

0492

滿洲國ハソノ建國ノ精神ニ於テ帝國ト一徳一心ノ關係ニイリテアリマシテ、建國以來十年ヲ經テ異常ナル發展ヲ遂ゲテ居ルノチアリマシ。大東明戰爭以後ハ直接之ニ參戰ハ致シマシガ物心兩面ニ互リ全力ヲ盡メテ帝國ニ協力シツツマルノチアリマシ。特ニ戰爭勃發時ニ於ケル詔書ニモ又私ガ滿洲國訪問ノ當時拜謁ヲ許サレタル時ノ陛下ノ御言葉ニモコノ御恩召ヲ拜察シ得ルノチアリマシテ感激措ク能ハサル次第チアリマシ。要ナルニ滿洲國ハ帝國ヲ親ルニ親邦ヲ以テシ日滿ノ關係ハ既ニ同盟以上ノ關係チアリマシテ間然スル所ノナイ狀態チアリマシ。

外務省

0493





政治工作ニ今遂ニ臨シ來ルコトハ尙遠シ雖も且其ノ時機ヲ  
誤ルトキハ寧ロ之ニ依ル者ガ少クナイノチアリマス。依テ  
其ノ時機ニ關シテハ政府ト統帥部トノ間ニ於テ協議決  
定スルコトヲ致シマス。

### 二對泰方策

泰國ニ對シテハ其ノ獨立國ナルノ体面ヲ保持セシメソツ  
之ヲシテ大東亞戰爭ノ遂行ニ衷心協力シ帝國ノ雄策ニ積極的  
ニ協調セシムル如ク指導シソツテアリマスガ、國民一般ハ戰爭  
ニ依ル生活ノ不自由ヲ動キスレバ「ビフン」政權ノ維日對策  
及日本軍ノ駐屯ニ由來スルガ如キ考ヲ抱キ敵性諸國ノ日泰離  
間策、反政府分子ノ策動ト相俟テ一彼ノ對日空氣ハ必ズシテ

満足スベキ状態ニテアリトハ言ヒ難イノチアリマス。

帝國トシテハ「ビフン」政權ノ困難ナル立場ト泰國民ノ心理  
的動向トニ鑑ミ、日泰同盟條約附屬秘密了解事項第一條ニ基  
キ日本軍占領地帯タル「マライ」ノ失地回復セシムルト共ニ  
經濟協力ニ一層強化スルコトガ肝要チアリマス。  
又「シヤン」地方ノ一部モ之ヲ泰國領ニ編入スルモノトシ之  
ガ實施ニ關シテハ「ビルマ」ニ與フル影響ヲモ較量ノ上其ノ  
時機及地域等ヲ決定スルヲ要スルノチアリマス。

### 三對佛印方策

佛印ニ對シテハ帝國ノ大東亞戰爭遂行ニ實質的ニ利用スルト  
共ニ其ノ靜謐ヲ保持シ、敵側ノ策謀ヲ封殺シ、帝國ニ對スル



各般ノ協力ヲ一層積極的ナラシムル如ク施策中デアリマシテ  
今日迄ノ所佛印當局ノ對日協力ニハ相當見ルベキモノガアル  
ノデアリマスカ世界情勢ヲ反映シ且米英軍勢側ノ執拗ナル宣  
傳等諸般ノ事情ニ因リ佛印側ノ同調的態度未ダ十分ニハ徹底  
スルノ域ニ達シテ居リマセンノヲ益々前述ノ方針ヲ強化スル  
コトガ肝要デアリマスカ。但シ佛印ノ本國ヨリ離脱セシムル如  
キ極端ナル施策ハ大東亞戰爭ノ現段階ニ於テハ之ヲ避クル  
要スルノデアリマスカ。

四 對緬方策

對緬方策ニ就キマシテハ昭和十八年三月十日大本營政府連絡  
會議決定「緬甸獨立指導要綱」ニ基キ施策中デアリマシテ、

外務省

五月八日獨立準備委員會ヲ結成シ六月末準備完了ノ期ニ準備  
促進中デアリマスカ。

五 對比方策

比島ニ於テハ第八十一回帝國議會ニ於ケル比島獨立ノ再確認  
ニ關スル帝國政府ノ聲明ニ依リ依然對日信賴ノ度ヲ強ク行政  
府長官以下帝國ノ臣僚ヲ解シ、治安ノ肅正行政ノ移渡ニ鋭意  
努力中デアリマシテ大東亞共榮圈ノ一環トシテ更生シツツ  
リ其ノ一端ハ過般現地ニ於リマシテ私目ノマタリニ之ヲ見  
タノデアリマスカ。  
依テ帝國ハ屢次ノ公約ニ基キ之ヲ獨立セシムルコトトシ其ノ  
時期ハ治安未ダ完カラザルモ、戰爭指導上ノ要請ト比島側ノ

外務省

自發的協力促進ノ見地トヨリ概ネ本年十月頃ト豫定シ準備ヲ促進スルコトト致シマシタ。

六其他ノ占領地ニ

「マライ」「スマタラ」「ジャワ」「ボルネオ」「セレベス」ハ民度低クシテ獨立ノ能力乏シク且大東亞防衛ノ爲帝國ニ於テ確保スルニ必要トスル要域チアリマスノチ之等ハ帝國領土ト決定シ重要資源ノ供給源トシテ極力之ガ開發並ニ民心ノ把握ニ努ムル所存チアリマス。之等ノ地域ニ於テハ當分ノ間依然軍政ヲ繼續致シマスガ原住民ノ民度ニ臨ジ努メテ政治ニ參與マシムル方針チアリマシテ現ニ高度自治ヲ要望シテ居リマス。」「ジャワ」ニ對シテハ特ニ之ヲ觀メル積リチアリマス。

外務省

0500

而シテ本歸議決定ハ敵側ノ宣傳ノ資ニ供セラルル等ノ虞ガアリマスノチ當分ノ間發表セザルコトト致シマスガ原住民ノ政治參與ニ關シマシテハ適宜之ヲ發表スルヲ適當ト考ヘテ居リマス。

七大東亞會議

以上各方針ノ具現ニ伴ヒ本年十月下旬(比島獨立後)大東亞各國ノ指導者ヲ召集センノ、戰爭完遂ト大東亞共榮圈確立トノ牢固ナル決意ヲ闡明シ以テ戰爭完遂ニ邁進セントスルモノチアリマス。

外務省

0501



自 昭和十五年 五月 日  
 至 昭和十五年 一月 日

松本記録  
 昭和十五年十月  
 遺族より提供を受く

# 支那事変

第一卷

外務省  
 記録  
 自 昭和十五年 五月 日  
 至 昭和十五年 一月 日

松本記録  
 昭和十五年十月  
 遺族より提供を受く

# 支那事変

第一卷

松A
1
1
0
30

REEL No. A-0231

0261